

助成年度：平成 8 年度

[所属] 岐阜大学 教育学部

[役職] 教授

[氏名] 合田 昭二 (他計 5 名)

[課題]

世界文化遺産・白川郷の持続的保全方法に関する研究

[内容]

1. 1957 年から 1993 年にかけての白川村菟町周辺における景観構造の変化を空中写真を利用して解析した。その結果景観構造に大幅な変化は見られないものの、広葉樹林、耕作地の減少、人工林、居住地、道路の増加といった景観上の変化が認められた。また 1957 年当時には様々な面積のカヤ場が菟町周辺に散在していたが、大部分は 36 年の間に森林化したことが明らかになった。これらの変化は白川村の経済基盤の変化と同調していると考えられた。

2. 合掌家屋保全の焦点である屋根の葺き替えは、伝統的には人手・材料調達とも「ゆい」組織で行われた。現在は、人手については「ゆい」が維持されているが、屋根の片面は賃金労働に依存するなど、「ゆい」のウエートは下がっている。材料については、各戸が有してきたカリヤスのカヤ場が放棄されて、「ゆい」は消滅し、耐久性で劣るススキを村外から購入する方式が取られている。ススキの安定供給の見通しも不確定で、カリヤスの茅場を再興するような補助政策が、合掌集落の持続的保全のために必要となっている。

3. 白川郷観光の課題は、「宿泊客の持続的・安定的獲得」と「観光と農林業、地場産業などの結びつき」を強化することである。このため、平成 9 年 8～10 月、民宿宿泊者（回収 296 部）とソバ道場入門者（215 部）にアンケート調査（実数で 385 部）を実施した。

民宿のもてなしはおおむね好評であったが、「宿の人との会話やふれあいがもっと欲しかった」「火の入ったいろりを囲んで食事がしたかった」「民宿の二三階の構造をみたかった」「カヤの栽培場所を見たい」などの項目で 5～7 割が程度の大小はあれ、体験や「ふれあい」を希望している。

4. 菟町・平瀬集落の实地調査で、神岡町出身の女性作家＝江夏美好(1923～1982)の実姉＝中村志ゲ子氏から聞き取り調査を行なった。江夏の長編小説『下々の女』（河出書房新社、昭和 46 年 2 月）を対象に、明治から昭和にかけての激動の時代、苛酷な地理的・気候的環境を有する＜下々の国＞に生きた女の生涯というモチーフや、主人公の郷里に対する拘泥と愛着、父祖の血への畏怖と自負という心のすがたを考察することによって、白川郷という自らの人生の原点への追尋を試みた作者の執筆動機、またその文学的昇華の様相・方法について検討した。